

令和8年度地域学校協働本部事業 地域連携担当教職員研修会（会津地区）

福島県教育委員会（会津教育事務所）

〈日 時〉令和8年8月17日（月） 13:20～16:20

〈会 場〉会津若松市北会津支所 ピカリンホール

〈参加者〉44名（小・中・義務・高等・特別支援学校教諭、教頭、校長等 教育委員会関係者、事務局）



講演・演習 「学校を核とした地域づくり・地域とともにある学校」

一般社団法人 とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人 氏

- ・ 地域住民とのつながりをつくること、住民同士のつながりを強めることがコミュニティスクールの目的。
- ・ 「地域とともにある学校」は目的ではない。学校運営協議会の最終着地点は、学校を核とした「地域づくり」（地域創生総合戦略）である。
- ・ 学校が中心となって地域づくりを進めるということではない。学校は、子どもたちの地域づくりの基礎力を養い、トレーニングをすることが重要。
- ・ 学校運営協議会をどのように受け止めるか（情報共有）をともに考える。
- ・ 今までやってきたことを大切に継続することが大事。新しいことをやる必要はない。新しい気持ちでやること。
- ・ 「学校を核とした地域づくり」は社会に開かれた教育課程、学校運営協議会、地域学校協働の3つを連動させることが重要である。
- ・ 地域の人々のつながりを強くすることによって、学校経営が円滑に展開できるようになる。
- ・ 良い学校は、良い地域にしか存在しない。
- ・ 地域の良質な大人と子どもが出会うことが教育効果を高める。多くの良質な大人は主に公民館に出入りしている。
- ・ 学校・地域・保護者で教育責任を分担し、地域を育てていくことが重要。



<<参加者からの声>>

- 参加者の中で漠然としていた、「地域学校協働活動とは、具体的に何をする事なのか」が、明確になる講演だった。特に、「新しいことを行うのではない。今あることを少し変える」、この言葉は、参加者のこれからの行動を後押しする、貴重なものだった。
- 廣瀬氏のこれまでの経験や全国の具体的な事例を紹介していただく中で、自分の学校、地域でどのような活動をすることができるか、イメージを膨らませることができた。
- 固有名詞を呼び合う関係性づくりに向け、教職員や推進委員がどのように行動を移せば良いか。また、どのように協議を行うかを学ぶ貴重な時間となった。
- 「学校を核」とする地域づくりの目的を知り、分かりやすく納得してしまいました。ただ単に学校を支援することではなく、地域の絆を学校が、子どもたちが築いていく、顔の見える固有名詞でつながる関係性を築いていく、そのことを先生方にも伝えていきたいと思います。参加された先生方との会話も弾み、楽しい研修となりました。廣瀬先生のお話、気概を感じパワーをいただきました。

